

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果  
作成日

平成22年 3月 1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791300029		
法人名	社会福祉法人 貝塚誠心園		
事業所名	グループホーム きしまの里		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	〒597-0105 貝塚市三ツ松869-1		
自己評価作成日	平成22年 2月 1日	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カロア
所在地	大阪市天王寺区堀越町1-1 四天王寺堀越ビル
訪問調査日	平成22年 2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、デイサービス、ユニット特養、ショートステイと併設されており、緊急時のオンコール体制が取られています。又、精神科、内科、歯科の往診を受けることができます。  
利用者個々の状態を把握して、残存機能の活用や機能の向上の為に、手摺を持つての立位訓練や歩行練習に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

高齢者地域福祉施設きしまの里は、住宅街にあり、また小学校や保育所が近く、地域に密着した施設です。グループホームきしまの里は施設の2階にあり、窓が大きく開放感のある造りでした。また季節を感じとれる手作りの飾りつけがされ、家庭的な雰囲気です。室内及び共有スペースは明るく清潔感にあふれ、トイレは何ヶ所もあり快適に暮らせる環境です。職員は私服で、優しく笑顔で利用者一人ひとりのペースに合わせ、ゆっくりと一緒に時間を過ごす関わりをしていました。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>・理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を頭に入れて、利用者の言動を受容し、残存機能の活用と機能の維持及び安心、信頼、満足して頂けるように努めています。理念は、掲示板に提示し明確化している。	法人の理念として「安心・信頼・満足」を掲げ、職員は優しい心のこもった思いやりのあるサービスを目指しコミュニケーションを大切にされています。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社会福祉協議会ボランティアの方々の定期的な訪問や演芸訪問を受け交流を図っている。地域に出る事は、利用者が重度で難しい面がある。	地域の行事(小学校の運動会、お祭り)に参加され、地域住民の一員として交流を図っています。また、利用者が重度化され外出出来ない方のために訪問交流もしています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特になし		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は定期的に開催しており、その時に伺った意見は、改善できる事は改善しサービスの向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に一回のペースで開催されており、ホームの取り組みについて報告し意見を頂いており、会議を通して地域との交流を促進していこうとしています。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	高齢介護課の市職員の方が運営推進委員会に参加して頂き意見交換を行っている。	市の職員や地域の方の意見・相談や情報を得るなどの取組みをされ、協力関係を築かれています。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言はしていないが施設全体で身体拘束は行っていません。	玄関のドアはオープンに開いており、施錠されていません。利用者の方も一人ひとりのペースで過ごされています。	
7		虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、職員の言動に注意を払い、虐待防止に努めています。		

8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域権利擁護や成年後見人制度等の研修は受けていないが、現在、対象となる方は入居されていません。</p>		
9	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項の説明を行い、疑問に関しては、その都度、応え、納得していただいている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会も多く、家族さんが意見を言い易い関係を持ち相談を受ければ、管理者に報告、必要に応じて総合施設長と協議し対応し、運営に反映するように心がけている。</p>	<p>面会時に職員から声をかけ、ご意見を伺い改善に向け対応されています。また、意見箱を設置しており、いただいたご意見を施設の向上に反映するように努められています。</p>
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>管理者もグループホーム会議に参加し、職員の意見や要望を聞き、全体会議で反映している。</p>	<p>職員の方は、話しやすい環境で発言でき、管理者の方と良い関係作り、交流がなされています。</p>
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握して、各自がやりがいを持って働けるように賞与に反映し、職場環境や条件整備を考えて下さる。</p>	
13		<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修の機会はないが、毎月の職員会議や内部研修に参加する機会を提供し、資質向上に努めている。</p>	
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>特に行っていない。</p>	

## 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者とのコミュニケーションを図りながら、精神の安定に努め、信頼関係が築ける様に努力している。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族の要望を確認し、安心、信頼、満足していただける関係作りを行っている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族の意見を確認し対応している。</p>		
18	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者個々の能力に応じて、残存機能の活用を図り、洗濯物干しや洗濯物たたみ、自室の清掃等、出来る事を手伝っていただいている。</p>		
19	<p>本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の面会も多く、通院の応援や日々の変化を家族に報告し、必要に応じて利用者を共に支える関係を築いている。</p>		
20	<p>8 馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている</p>	<p>高齢と重度の認知症の方が多く、馴染みの関係は薄くなっている。</p>	<p>利用者が高齢化し、認知症がより重度になられた方が多い為、友人が訪問される機会は少ないですが、娘さん息子さん孫さんたちがよく来られ、写真などが貼ってあり温かい感じがします。</p>	
21	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を把握して対応している。</p>		
22	<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>家族より相談があれば、何時でも相談に応じている。</p>		

その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中から、個々の意向を把握して本人本位に生活を送れる様にしている。</p>	<p>一人ひとりの生活暦を把握し、趣味等の意思表示できる環境作りがされています。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>個々の生活歴を把握やサービス利用の経過等を本人や家族から聞き把握している。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>利用者の個々の心身の状態を把握し、残存機能の活用を図るように努めている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入所時に、家族から希望や課題を聞き、職員尾記録や意見を参考にし介護サービス計画書を作成している。</p>	<p>入所時に本人・家族・職員とが、よりよい暮らしをするために話し合い、その結果で介護計画書を作成し、日々変化するたび検討、話し合いが持たれています。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録や日々の様子や実践を参考にし、実践や介護サービス計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>通所介護を利用された事がある方は、通所介護の馴染みの職員や利用者を訪ねたり、催し物に参加して交流を図っている。</p>		
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者の気分転換を図る為に、貝塚社会福祉協議会のボランティアの受け入れ、幼児、小、中、高の学生の受け入れ等を受け入れているが、昨年は、インフルエンザ騒動で受け入れを控えている。</p>		

30	11	<p>かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所前のかかりつけ医に継続して受診していただいている。家族が、困難な時は、施設対応。</p>	<p>週一回の医師、歯科医師の往診があり、24時間のオンコール体制が取られています。また利用者の希望する医療機関にも受診が出来るように対応されています。</p>	
31		<p>看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>併設の看護師が一日1～2回訪問してくれ、利用者の状態報告をすると相談に乗ってくれ、夜間も緊急時は対応してくれている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院から家族や施設に相談があり、病状や入院期間等について併設の看護師が相談し対応してくれている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>特にしていない</p>	<p>重度化や終末期に向けた取り組みは、現在のところ対象者がいないため、特にしていないのですが、骨折等で入院されると、2～3ヶ月はそのまま居室をあけて待っているという安心・信頼できる状態です。</p>	<p>今後、本人・家族等、安心して暮らせるよう、事業所の出来ることをご家族に理解していただき、支援していただけることを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>内部研修で定期的に看護師が説明し指導してくれている。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人の指導の下、防火訓練を職員全員参加で年2回実施している。緊急連絡網を作成し災害時の対応に備えている。</p>	<p>災害対応マニュアルや連絡網を作成し掲示されています。また毎年リーダーを変えるなど対応されています。</p>	

. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の要求や意志を確認し、尊重しながら対応している。	寒さを感じない温かい個浴があり、また色分けしてトイレも広々としており車椅子の出入りがしやすくされています。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由な意思表示と自己決定できるように働きかけている。	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活パターンを尊重している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出来ていると思う。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は委託で作る機会はないが、炊飯やクッキングの機会を提供し、利用者と一緒に楽しんでいる	キッチンが中央に設置されており、利用者と一緒に盛り付けできる配慮がされ、また利用者の体調によっても食事を変更できるよう対応されています。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量、水分量をチェックして個々の状態を把握している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。歯の状態により、毎週月曜日の往診日に歯科受診を受け、入れ歯や歯の治療をして頂いている。	

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中は、個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を中心に支援している。リハビリパンツから布パンツに切り替えオムツ減らしの努力している。</p>	<p>職員は一人ひとりの排泄パターンを把握して日中はトイレの声かけを行い、布パンツで対応されリハビリパンツを減らしています。効果もあがり、努力しています。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘の予防になればと、起立運動や歩行の機会を提供するようにしている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>現在、曜日を決めて提供している為に、今後の課題として取り組む必要がある。</p>	<p>現在は曜日を決めて週2回の入浴日を設けており、利用者のADLの状態に応じて一般浴・機械浴で対応されています。</p>	<p>今後、入浴の希望があれば利用者の意向にそって入浴を行う取り組みを期待します。</p>
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の意思や状態を把握して安心して眠れるように支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の処方箋を個々のファイルで確認出来る様にしており、変化時に確認出来る様になっている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>継続的な楽しみの提供は困難だが、気分転換の支援は心がけている。</p>		



49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>ドライブや外食、近辺の散策等で戸外に出る機械を提供している。</p>	<p>月一回のドライブで季節を感じていただき、歩行不安定な方は、車椅子で対応し外出されています。また、近辺には水間観音もあり、外出支援を行っています。外食も楽しまれています。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分でお金が管理できる利用者には自由にしているが、殆どの方が金銭管理が困難である。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が希望されれば支援するが、現在のところ、面会も多く、希望者もありません。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>加湿器、除湿機、空調の調節等、常に適温に調節する様に配慮している。</p>	<p>日当たりがよく、窓も大きく明るく広い室内で、キッチンや手洗いは中央に設けられ生活感が感じられ使いやすい環境です。また、室内の温度・湿度にも気をつけ感染予防に努めておられます。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファの設置をし自由に過ごせるようにしている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者のご家族が持参され過ごし易い様に工夫されている。</p>	<p>ベッドと布団はグループホームの管理ですが、その他のものは、それぞれ馴染みのある物を持参されるなどしています。掃除についても本人の意志でされ、清潔感のある居心地のよい明るい居室です。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者のできる事は声かけ見守り、残存機能が活用を図り自立した生活が維持できる様に支援している。</p>		

アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています		ほぼ全ての利用者と 利用者の3分の2くらいと 利用者の3分の1くらいと ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くない
66	職員は生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の3分の2くらいが
			職員の3分の1くらいが
			ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の3分の2くらいが
			利用者の3分の1くらいが
			ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族が
			家族の3分の2くらいが
			家族の3分の1くらいが
			ほとんどできていない